

東松島市

「震災からの復興まちづくりに関するアンケート」 中間報告（2011.7.31回収分）

- ◆調査対象 震災時に津波浸水地域に居住していた世帯
- ◆調査実施期間 平成23年7月16日～25日
- ◆発送数 3,126世帯
- ◆回収率 54.4%（回収数1,701うち有効票数1,698）
- ◆調査方法 郵送による配布及び回収（宮戸地区は地域住民による全戸配布回収）
- ◆その他 郵送住所に関しては、流失地域の現状を鑑み、住民票住所ではなく、各種震災手続きに用いた最終住所を用いている。また、回答期限についても、当初の7月25日から随時対応としており、8月以降もアンケート回答を受領している。

趣旨

本アンケートは、策定中の「東松島市復興まちづくり計画」の基礎資料とすることを目的として実施しました。設問については、基本的な項目のみとし、対象世帯は集団移転を希望している地域のみとしております。今後、10月以降に全世帯を対象としたより詳細なまちづくりアンケートを実施いたします。

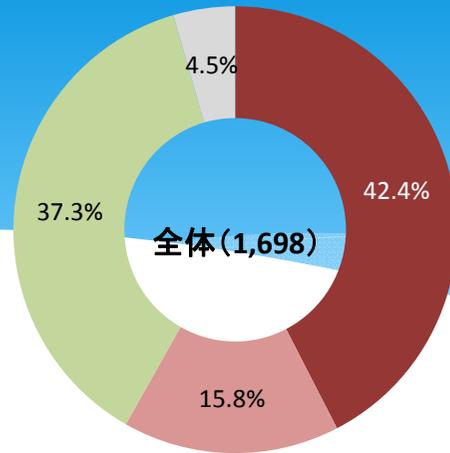
罹災建物



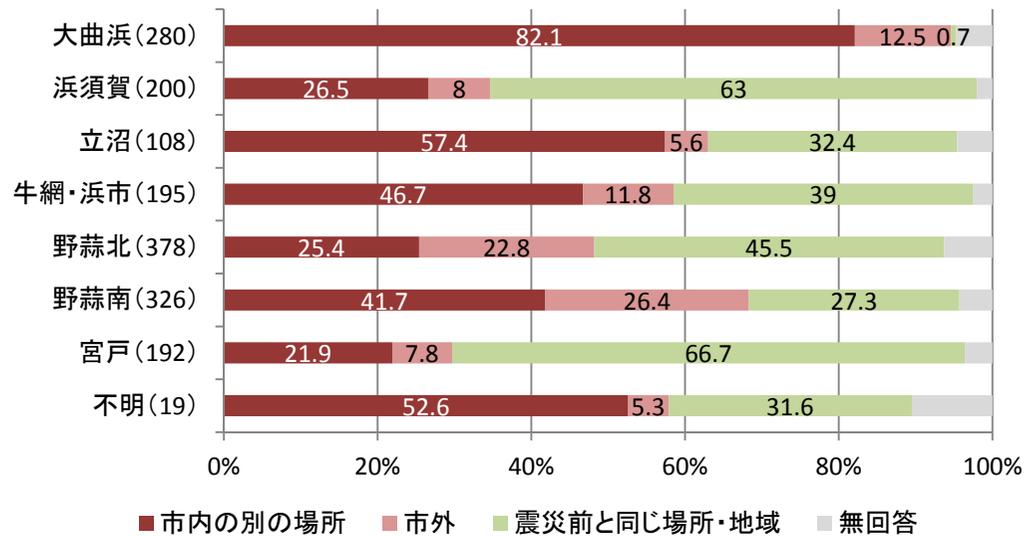
【抽出世帯の被災状況】

本アンケート回答世帯の所有資産の被災状況については、流出39.4%、全壊44.6%、大規模半壊11.2%、半壊2.1%、一部損壊1.2%となっており、津波による被害の大きさを改めて実感させられます。

※野蒜北 野蒜南については、東名運河を基準として海側を南、山側を北としています。



■ 市内の別の場所 ■ 市外 ■ 震災前と同じ場所・地域 ■ 無回答



■ 市内の別の場所 ■ 市外 ■ 震災前と同じ場所・地域 ■ 無回答

【今後の居住意向について】

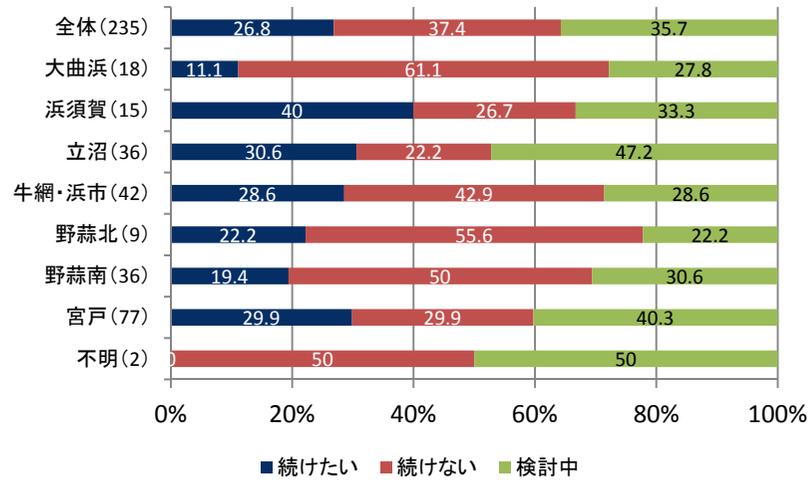
全体で「市内の別の場所」に居住したい42.4%、「市外の別の場所」に居住したい15.8%の回答があり、あわせて58.2%（1,698世帯中988世帯）が今回の震災に伴い移転を希望しています。

一方、震災前と同じ場所もしくは同じ地域に住み続けたいとの回答が37.3%となっています。

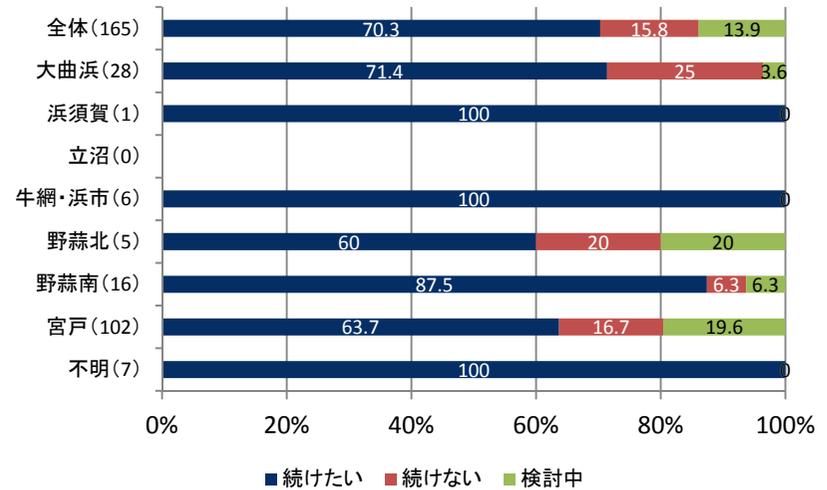
地域別の移転意向をみると、ほとんどの家屋が流失している大曲浜が94.6%と最も高く、次いで野蒜南68.1%、立沼63.0%、牛網 浜市58.5%、野蒜北48.2%の順となっています。

※野蒜北 野蒜南については、東名運河を基準として海側を南、山側を北としています。

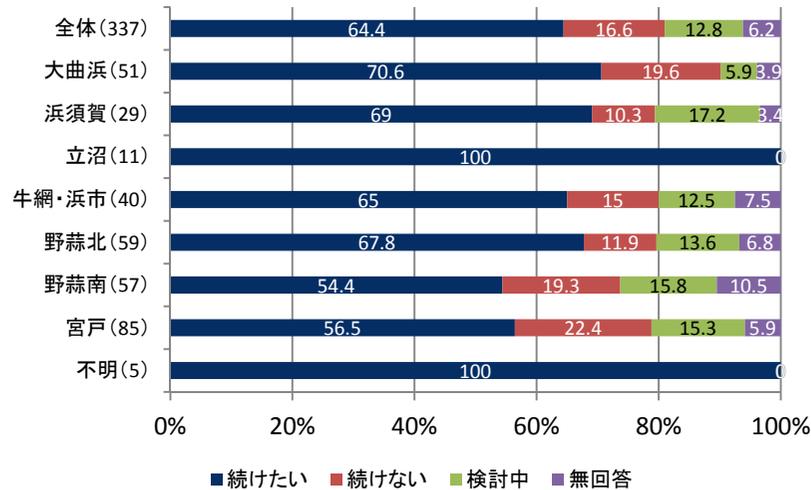
農業の継続意向（農業従事者）



漁業の継続意向（漁業従事者）



事業の継続意向（自営業、事業主）



※野蒜北 野蒜南については、東名運河を基準として海側を南、山側を北としています。

【産業の継続意向について】

◆農業について

震災前に農業従事していた世帯中、37.4%が農業は続けないと回答し、35.7%が検討中と回答しています。続けたいと回答したのは26.8%にすぎず、塩分除去、排水機場の改修、農機具の再取得など再開する場合の課題の多さによるものと考えられます。

◆漁業について

震災前に漁業従事していた世帯中、70.3%が続けたいと回答しています。兼業化が進む農業に比べ、漁業は専業が多いことから、養殖場の整備、漁業器具の再取得など課題が多いものの、継続意向が高いものと考えられます。

◆自営業、事業主について

震災前に商店、飲食店、旅館、民宿、水産加工場などを営んでいた世帯中、64.4%が続けたいと回答し、56.6%が「震災前と同じ場所」での継続を希望しています。居住意向と合わせ、集団移転と同時に職住分離についても検討する必要性があるものと考えられます。